

世界遺産

敦煌

世界最大の砂漠の大画廊

—とんこう—

令和元年

10月5日[土]—12月1日[日]

開館時間：午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

入館料金：一般920円(830円)、高大学生410円(370円)、小中学生210円(190円) ※()内は10名以上団体料金

主催：公益財団法人平山郁夫美術館、中国新聞備後本社

後援：広島県、広島県教育委員会、公益財団法人ひろしま文化振興財団、尾道市、尾道市教育委員会、朝日新聞広島総局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、ちゅピCOM おのみち、広島エフエム放送、尾道エフエム放送

協力：東京藝術大学COI拠点、広島大学

平山郁夫美術館

〒722-2413 広島県尾道市瀬戸田町沢200-2

TEL.0845-27-3800 <http://www.hirayama-museum.or.jp/>

上：《敦煌鳴沙》(部分) 平山郁夫 1985年 箱根芦ノ湖・成川美術館蔵

下左：スーパークローン文化財「敦煌莫高窟第57窟」

下右：《模写 敦煌莫高窟第57窟 南壁中央 仏説法鬘右脇侍菩薩部分》

押山治 台東区コレクション

煌皇

1400年の時を超えるスーパークローン文化財



敦煌莫高窟

敦煌は河西回廊の西端にあり、古くから中国と西域の分岐点として栄えてきたオアシス都市です。その東南25kmに位置する鳴沙山^{めいささん}の東の断崖に莫高窟があり、五胡十六国時代(4世紀)から元時代に至るまで千年間にわたって石窟が彫り続けられました。大小492の石窟に塑像や壁画が保存されており、「砂漠の大画廊」「仏教美術の宝庫」と称される世界遺産です。

《敦煌石窟九層樓》平山郁夫 2007年 平山郁夫シルクロード美術館蔵



平山郁夫、敦煌へ

「いよいよ敦煌へ向かう。大砂丘のような山並みが見えてきた。谷に向かって走る。敦煌莫高窟の石碑がある。ポプラの林の上に、莫高窟が遠望できる。とうとう敦煌へやってきた。」

1979年9月、平山郁夫は念願であった敦煌を訪れました。同年6月に宿舎が水害にあったため中国側から延期の申し入れがありましたが、敦煌文物研究所の一室に寝泊まりすることで取材旅行が実現しました。北京から蘭州まで車で34時間。一泊して酒泉まで27時間。車中泊、酒泉で一泊、さらに車で嘉峪関経由で8時間かかりました。乗り物だけで約70時間、4日かかりの旅でした。

スーパークローン文化財

文化財は古くより「保存」と「公開」の両立が求められるという矛盾を抱えています。劣化する文化財の保存には非公開が最良の選択ですが、公開されないと価値が共有されず本来の存在意義が損なわれてしまいます。この問題を解決すべく、東京藝術大学では芸術と科学技術の融合による高精度な文化財複製「スーパークローン文化財」の技術を開発しました。

スーパークローン文化財の制作に際しては原本の詳細な調査を行い、最先端のデジタル技術と伝統的なアナログ技術を駆使し、絵具や基底材などの成分・表面の凹凸・筆のタッチまで忠実に再現しています。人の手技や感性を取り入れて仕上げることで、原本と同素材、同質感であるだけでなく、技法、文化的背景、精神性など、芸術のDNAに至るまでを再現する、まさしく文化財のクローンなのです。しかし、真の目的は学術的に妥当性の高い複製や復元を行うことではなく、文化そのものを継承し、新たな芸術を生み出すことにあり、見る人にどう感動してもらえるかということを大切にしています。(東京藝術大学COI拠点)



◀ 荒砂、薬、石化粘土と敦煌の土を混ぜて構造体に塗り付け、質感を再現した。



▶ 敦煌莫高窟壁画で主に使用されている群青、緑青、朱、弁柄といった、日本画でもよく用いられる顔料を塗布する。宝飾品の描写には、絵具を盛り上げて彩色したあとに金箔を貼り、当時の技法を再現した。



◀ 第57窟の仏像は後世の手が多く入っているものだったため、他の優れた仏像を参考にして、造像時に合わせた復元を敦煌研究院に提案し、共同で制作した。



交通のご案内

[船] 三原港→瀬戸田港 尾道港→瀬戸田港 瀬戸田港より徒歩約10分

[車] 山陽自動車道・福山西IC→生口島北IC(約40分)

※本州方面からは生口島北ICでしか降りられません。

しまなみ海道・今治IC→生口島南IC(約35分)

※四国方面からは生口島南ICでしか降りられません。

平山郁夫美術館

〒722-2413 広島県尾道市瀬戸田町沢200-2

TEL.0845-27-3800 <http://www.hirayama-museum.or.jp/>